

# 第 1 回 射水市学校等のあり方検討委員会

日時：平成 2 2 年 5 月 2 7 日（木）

午後 7 時 3 0 分

場所：射水市小杉庁舎 303・304 会議室

1 開 会

2 教育長挨拶

3 委員長の互選及び副委員長の指名

4 部会の設置、所属委員及び部会長の指名

5 議 題

(1) 設置の目的について

(2) 会議の運営方法について

(3) 会議資料の説明について

6 その他

・次回日程について

7 閉 会

## 第1回射水市学校等のあり方検討委員会 会議録

日 時：平成22年5月27日（木）

午後7時30分～午後8時25分

会 場：小杉庁舎3階 303・304 会議室

出席者：【委員】松本謙一、境孝雄、大代武夫、岸正俊、竹内敬俊、佐々木章、墓越訓夫、越後裕、平野雅一、中島英樹、石黒幸浩、森一也、角谷益孝、松野禎夫、萩野康彦、黒田和治、仙田也寸志、野上克裕、岡山萌子 19名

【当局】結城教育長、山崎教育次長、星野教育次長、一松教育総務課長、成田主幹、原課長補佐、久々江係長、藤井主任、寺井主事 9名

### 1 開 会

一松教育総務課長

### 2 教育長あいさつ

大変お忙しい中にもかかわらず、「射水市学校等のあり方検討委員会」への委嘱を承諾いただきありがとうございます。

さて、子どもたちを取り巻く環境は、高度情報化、国際化、少子高齢化とめまぐるしく状況が変化し、子どもたちの教育環境に大きく影響を与えています。特に少子化は、児童・生徒の減少に拍車をかけており、本市においても今後、小規模校化が進むものと思われま

す。また、本市は5つの市町村が合併して誕生し5年目を迎えていますが、小規模校と大規模校が混在し、教育環境の不均衡を生じている状況にあります。

21年度には、新湊地区におきましてあり方検討委員会を設置し、ご検討いただき、ご承知のとおり、中伏木小学校の複式学級化の解消や、あるいは奈古中学校と新湊西部中学校の統合の方向性を提言いただいているところであります。

今回、新湊地区を含めて、全市的に中・長期的な学校等のあり方を検討していただくために検討委員会の設置をお願いしたわけでありま

す。委員の皆さまにおかれましては、子どもたちにとって望ましい教育環境の視点から学校の適正規模・適正配置について協議いただくとともに、緊急の課題である大島小学校の整備の方向性についても検討いただきたいと思います。と

思っております。子どもたちにとって望ましい教育環境を整備し、充実した教育を実現するため、どうか忌憚のないご意見をお聞かせいただければと思っております。よろしく願

### 3 委員長の互選及び副委員長の指名

委員長に、松本謙一氏（富山大学人間発達科学部教授）を互選。

委員長より就任のあいさつ。

今後、委員のみなさんのご協力をいただきながら、議事を進めてまいりたいと思います。不慣れですが、どうぞよろしくお願いいたします。

副委員長に、境孝雄氏（市PTA連絡協議会長）を松本委員長が指名。

#### 4 部会の設置、所属委員及び部会長の指名

重点検討地域部会の設置と所属委員（資料2P）及び部会長を松本委員長が指名。  
重点検討地域部会長には、仙田也寸志氏（小杉中学校長）。

#### 5 議 題

- (1) 設置の目的について
- (2) 会議の運営方法について
- (3) 会議資料の説明

以上、原教育総務課長補佐が配布資料に基づき説明。

#### 【質疑応答】

中島委員：資料の中には、重点検討地域の小学校のパターン別規模推移見込みがありますが、パターン1～4（対象小学校の設定）について、どういう視点で資料を作成されたのか、説明してください。

原課長補佐：大島地区の中には、近隣の地域も含めて統合を検討すればどうかという話がありました。隣接する区域は、作道小学校、塚原小学校それと小杉小学校、大門小学校があります。小杉小学校と大門小学校については、大規模校、適正規模校であり、また、耐震化も進めているところでもありますので、対象から外させていただいています。作道小学校、塚原小学校については、これから耐震化を進める予定にしていますが、まだ計画時期には達していないため、大島小学校とあわせて検討すればどうかということで資料を作成しました。

また、将来的に、作道小学校と塚原小学校の統合もありえるのではないかとということで、この点も含めて検討をお願いしたいので、パターンを作成しました。

竹内委員：重点地域として、三つの小学校が具体的に挙がっていますが、仮に統合するとすればいつ頃までと言うことになるのですか、お聞かせください。

一松課長：学校統合については、大変な時間を要すると思っています。保護者の方々、地域の方々のご意見もありますので、具体的に、いつまでという目途はありません。部会の方で、十分ご検討いただき、仮に学校統合を進めるということであれば、検討委員会で審議していただき、その後、教育委員会や市上層部の判断を仰ぎ、地区の方に説明に伺うという形になるかと思っています。まずは、各々の学校をどうすべきなのか、考えていただきたいと思います。

- 竹内委員：できれば、単独ですっと行きたい思っています。単独で存続する可能性は考えられないのでしょうか。
- 一松課長：原則的に、学校統合ありきではありません。子どもたちにとって、適正規模はどのようなかたちが望ましいのか、そのためにはどうすればいいのか考えていただきたいと思っています。子どもたちにとって、必要な手段として、学校統合が望ましいという検討委員会の結果になるようであれば、進めて行きたいと考えています。
- 松本委員長：まず先に統合ありきとか、統合先を選ぶとかではなく、他の選択肢や、まったく統合しない場合もありますということで、本当に、射水の子どもにとってどうすることが一番幸せなのか、全市的な視野でまず考えながら、そういう視点から、教育委員会に提言することがこの検討委員会の仕事になるのだらうと認識しています。如何でしょうか、
- 大代委員：只今の委員長の意見に賛成です。統合パターンありきでは無いということですね。
- 松本委員長：そういうことです。パターンから選ぶわけではありません。
- 佐々木委員：重点検討地域の統合パターンについては、大島小学校の関係から出てきた感じもしますが、統合パターンをまとめるのではなく、これを一つの話題として協議をすすめるということですね。
- 松本委員長：そうです。重点地域のその前に、まず全市的な視野から、子どもにとってどうすることが価値があるのか、確認するのが最初の目的だと思っています。
- 佐々木委員：私が思うには、子どもの環境をつくることは、親の環境をつくることも大事であります。子どもだけの環境では、学校教育になりません。親の環境があつてこそ、子どもの教育環境も生まれるのであります。そこも踏まえて、委員長に進めて行っていただきたいと思います。
- 松本委員長：そういう意図もあって、地域の代表やPTAからの代表に出ているのだと思っています。ご理解をお願いします。
- 森委員：資料に1学年40人の学級編成基準が載っていますが、これは「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」により、県教育委員会が定めたものが載っていると考えてよろしいですか。
- 原課長補佐：そのとおりです。
- 森委員：そうすると、国が考える適正規模は12クラスから18クラスということになれば、1学級40人となれば全校生徒が246名から720名、そして通学距離としては4キロと6キロが国が考えている適正規模として理解してよろしいですか。
- 原課長補佐：標準として考えていただければ結構です。
- 森委員：この標準であわせると、資料の学校規模によるメリット・デメリット(小規模、大規模)を二つに割った標準に従うのがちょうどベターであろうと考えてよろしいですか。

原課長補佐：そのことも含めて検討していただきたい。射水市には射水市のあり方があるのではないかとということで、第2回目の委員会になるかとは思いますが、どれくらいが射水市にとって適正規模・適正配置なのか委員のみなさんで意見交換していただきたいと思っています。第2回目では、市内学校の教職員へのアンケート調査の結果について報告したいと思っています。1クラスどのくらいの児童・生徒数が適当なのか、或いは、どれくらいの通学距離が適当なのか等アンケートしていますので、その結果も参考にさせていただきながら、検討していただければと思っています。

森 委 員：また、関連して調べてみますと、「義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律」によると、国の標準とする12から18クラス、通学距離4キロ、6キロの適正規模に統廃合する場合に、国が2分の1費用を負担するとなっています。そうすると市が独自のものを展開するためには、費用面から言って国の設置基準に従った方がやりやすいのではないのでしょうか。この点も考慮する必要があると思います。

松本委員長：森委員のご指摘は、費用面等も検討事項の重要な要素であります。国の予算資料等（補助金等）が今回の資料に掲載されていませんが、次回には、資料として提出いただければ、共通認識を持つことができるのではないのでしょうか。と言う事だと思われま。他、委員の方で次回に必要な資料等あれば、お聞かせください。

仙田委員：学校の人数が大きく変動するのは、新しく住宅地ができた場合です。予想外のかたちで児童数、生徒数が変動します。今後の児童・生徒数の推移に関し、今後の市総合計画における住宅地の建設予定や今後20年30年先の大きな都市開発の計画の見込み等、どの程度、市長部局と折り合いをつけておられるのか、聞かせてください。

原課長補佐：現在、捉えているところによりますと、大きな宅地分譲については、今後あまりないのではないかと考えています。市では現在、住宅マスタープランを策定中であり、資料はありませんが、射水市の流出入口について、少し調べています。地域によって、流出入口が異なっています。市全体で合併後、4年間で約2%程流出しています。逆に増えているところは、大門小学校、歌の森小学校、片口小学校の学校区が若干増えています。他の学校区は減少しており、減少幅が大きいのは、新湊地区であります。牧野地区にも流れているのではないかと考えています。次回検討委員会には、できる限り今後予定されている計画等をお示ししたいと考えています。

中島委員：この委員会の議事録は作成されますか。

原課長補佐：今回の議事録につきましては、次回委員会で提出したいと考えています。資料配布についても、事前配布したいと考えています。

## 6 その他

次回日程について 日時：平成 22 年 6 月 28 日（月）午後 7 時 30 分

会場：小杉庁舎 3 階 303・304 会議室 開催

### 【質疑応答】

佐々木委員：重点検討地域の部会はスケジュールどおりに行われますか、それとも、部会委員を交えての事前協議等は可能でしょうか。

一松課長：第 2 回検討委員会で学校等の適正規模を検討いただきたいと思います。検討結果である適正規模等のかたちが出てきましたら、重点検討地域の部会を開催したいと思っています。

松本委員長：必ずしもスケジュールどおり、進めるわけではありません。状況に応じて、必要があれば、臨時で開催したいと思っています。

## 7 閉会